# 地方都市圏における最寄り拠点のトリップ数分析
## ～出発地と目的地を考慮して～

令和 5 年 2 月　五十嵐　誠


### 要旨

**目的**

我が国では全国的に人口減少が進んでおり，特に過疎が顕著に現れている地方都市では，その維持のためにコンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づいた都市形成が急務である．そこで本研究では，パーソントリップ調査の結果を用いて，各小ゾーン・拠点間の移動交通量の分析を行い，社会変容に起因した中心拠点一極集中型から多軸拠点型の都市の利用に移行しつつある拠点設定の妥当性評価と拠点間連携の一助となることを目的とする．

**方法**

長野都市圏を対象に，「立地適正化計画の手引き」に準じた施設の立地データと各市町村の都市計画マスタープランにおける中心拠点を ArcGIS Pro で表示させ，その施設数を長野都市圏パーソントリップ調査の最小調査圏である C ゾーンと，拠点半径 800m の範囲ごとに集計を行う．また，各 C ゾーン間や拠点までの私事トリップの数を割合表示し，都市圏における拠点の利用割合について把握を行った．

**結論**

本研究ではこれまでパーソントリップ調査による研究で論じられていなかった出発地についての情報を整理し，今後の要因分析の基礎を形作ることができた．対象の C ゾーンはトリップ数分析の結果 6 分類中 4 分類に分けられ，最寄り拠点を目的地とする私事トリップが最も多くなる C ゾーンはほぼ認められず，拠点を目的地とするトリップが最少である C ゾーンが，全体の 9 割を占めることが明らかとなった．また，各 C ゾーンを起終点とするトリップ割合が 50%を超える C ゾーンは 1 割程度と，長野都市圏においては私事移動は広域となる傾向が示唆された．今後の課題として，トリップの要因分析や，最寄り拠点の定義を移動時間に応じたものによって解析するなど，より実際の移動に近しい方法での算出が必要となる．


指導教員　森本　瑛士　助教